隆眞老師の からくち説法 ③

大乗寺山主
東 隆眞

参禅で腹の底から経営を知る
欲を捨て自立、礼節、報恩を

龍潭老師と冨木医療器

「冨木さん、あんたは、儲けよう、儲けよう、と思うておるから、儲からんのや」。

冨木昭光さん（1929年―）は、ときの大乗寺住職松本龍潭老師（1892―1973年）からズバリ言われたのです。

「坊さんに、商売のことなどわかってたまるか」と思っていた冨木さんは、内心ドキッとしました。

お隣の田中さんから、剣道をやっていた1963（昭和38）年ごろ、「大乗寺さんを紹介しますから、一度おいでになってはどうですか」と誘われて、はじめて大乗寺の門をくぐったのでした。

龍潭老師は、痩せこけて、腰のまがった小柄で寡黙な人でしたが、眼光炯々、威風をはらっていました。

観念的な理解のみでは…

金沢市に本社がある冨木さんの会社は、1918（大正7）年冨木医療器械店（創業者・初代社長は冨木喜久男氏）として創業、1954（昭和29）年冨木医療器株式会社と改名、1972（同47）年冨木昭光氏が第2代社長に就任。医療にまつわる、その総数およそ数万点におよぶ物品を扱う卸売会社です。2018（平成30）年は、創業100年でした。

若いころの冨木さんは、初代社長の薫陶のもと、事業の拡張に、日夜を問わず打ちこんでいました。

どうしたら儲けられるか。部下に対する対応の仕方は悪くないか。お客さまの信頼をえていないのではないか―。

先代から、つねづね、

「自分が儲けるのではないぞ。お客さまに儲けさせてもらうのだからな」と言い聞かされておりました。

冨木さんは、ひたすら研究、研修に明け暮れていましたが、しかし、儲けとはどういうことか、お客さまによろこんでうけとめてもらうとはどういうことか、実は、まだ、まだ、腹の底からわかっていなかった―頭のなかで観念的に考えている程度だったのかも知れません。

やがて坐禅に魅入られ、家族の者、会社の社員にも呼びかけて参禅するようになります。

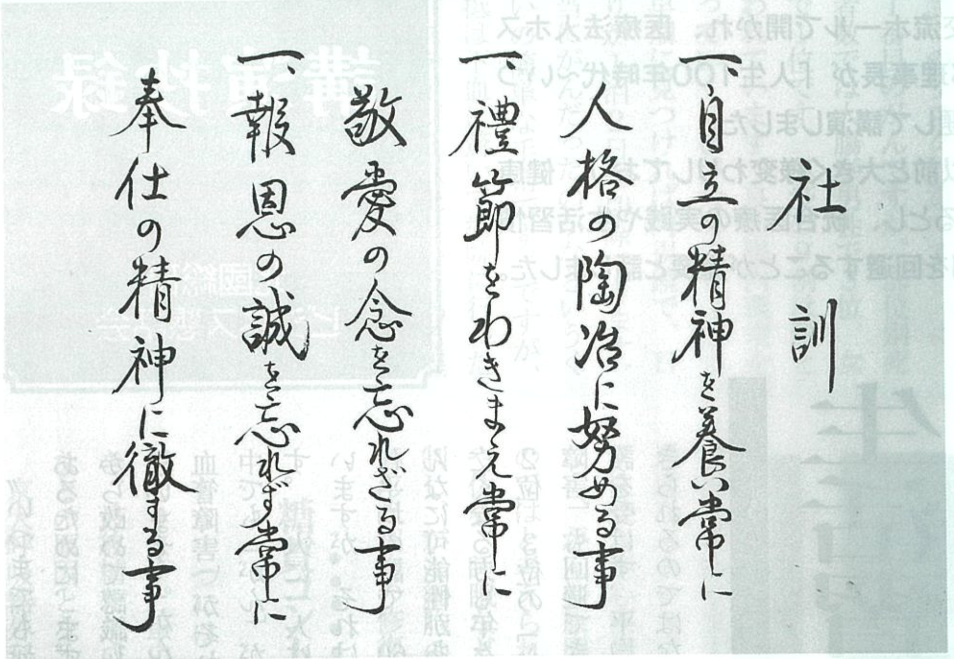
やがて法名、法衣受ける

12月1日から8日までのいわゆる臘八摂心のときなどは、剣道の稽古がおわると握り飯持参で、大乗寺で参禅、朝食（粥）をいただいて下山、帰宅し、着替えてすぐ出社ということもありました。

やがて、龍潭老師から、昭眼峻光居士という法名を授けられ、法衣も与えられました。

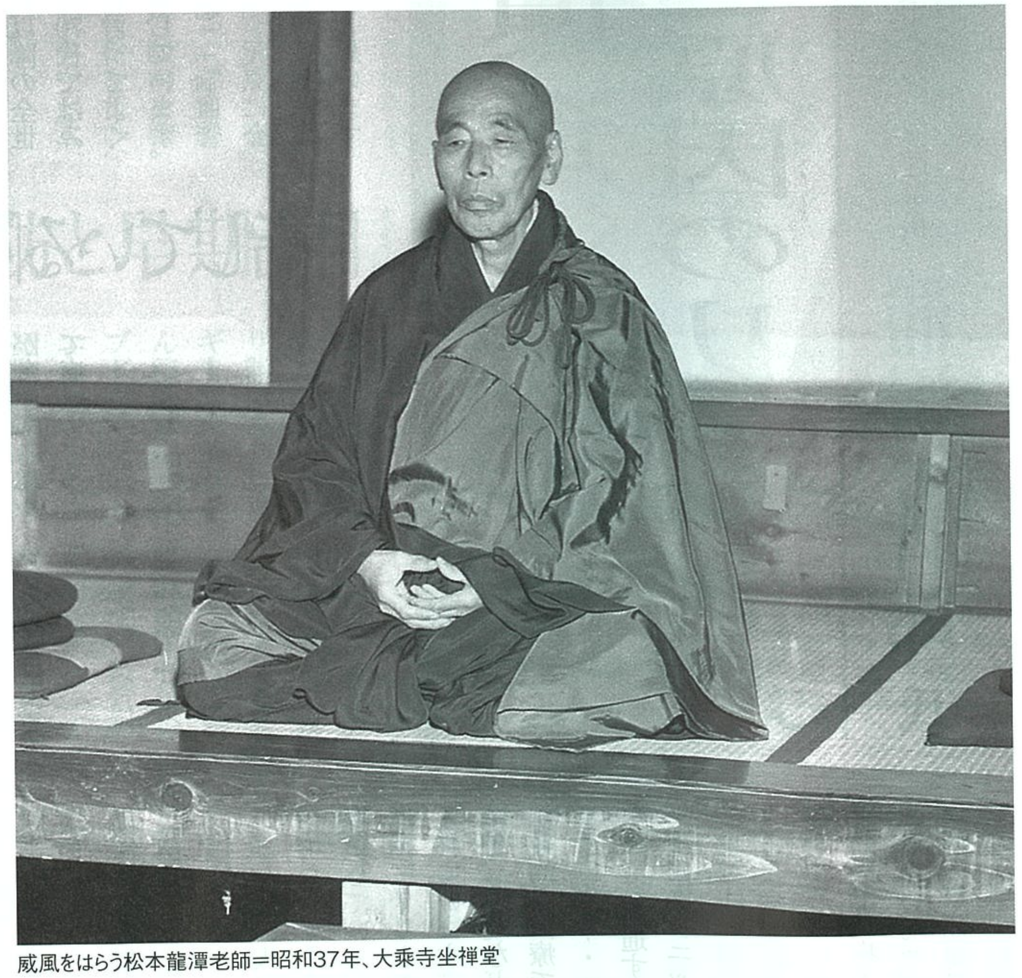
いまはすでに第3代社長、冨木隆夫氏となっていますが、2018（平成30）年3月期の年間売上高は242億円を超え、北陸の業界ではリーディングカンパニーとしての地位を不動のものにしています。

「人生には終わりがあるが、企業は永遠である」。



社　訓
一、自立の精神を養い常に
人格の陶冶に努める事
一、禮節をわきまえ常に
敬愛の念を忘れざる事
一、報恩の誠を忘れず常に
奉仕の精神に徹する事

龍潭老師が揮毫した冨木医療器の社訓



威風をはらう松本龍潭老師＝昭和37年、大乗寺坐禅堂

龍潭老師が社訓を揮毫

前後しますが、1968（昭和43）年、冨木医療器は創業50周年を記念して、社訓を制定し、龍潭老師に揮毫をお願いしました。これをご紹介しておきます。

一、自立の精神を養い常に人格の陶冶に努める事
一、禮節をわきまえ常に敬愛の念を忘れざる事
一、報恩の誠を忘れず常に奉仕の精神に徹する事